

令和4年度 自己評価・自己点検のまとめ

令和5年3月20日

認定こども園 みどりのかぜエデュカーレ

当園では、社会福祉サービスの充実と教育・保育の質の向上を図り、子ども達の健やかな成長と安全確保、また、職員一人ひとりの社会人としての資質の向上を図るためにチェックリストを活用し、良かった点や改善点などを再確認しています。

今後益々地域に根ざした施設となるべく環境を整え、子ども達、保護者、子育て世帯等の安心感と満足度向上のために職員一同努力していきたいと思っております。

自己評価

① 教育・保育の質の向上について

- ・ 保育教諭の専門性の向上を目指すため、園内研修をはじめ、外部研修（オンライン研修）、キャリアアップ研修等に積極的に参加し、新たな学びを日々の保育にいかせるようにし、教育・保育の充実を図ってきた。

また、それぞれが学んだことは園内研修を通して全職員に伝え共有しながら相互に教育の質の向上に努めてきた。公開保育を行い、市内の学校関係者、幼児教育保育施設関係者、自治体関係者、地域有識者、法人理事等に参加頂き、実践を通して子ども達の学びや育ちについて理解を深め、子どもの主体性を尊重した保育の展開を大切にして振り返り、保育教諭の役割の重要性や今後の課題について掘り下げることが出来た。

<改善策>

- ・ 子ども理解を深めるため、広い視野や様々な視点から子どもの姿を大切に捉えられるよう、今後も積極的に園内外の研修活動に取り組めるようにする。
- ・ 子どもの自ら環境に働きかけようとする気持ちを受け止め援助し、子どもたち一人ひとりの中にある可能性を引き出していけるよう、職員間の研修の充実はもとより意見交換や自己研鑽の時間を確保するよう努力する。
- ・ 子ども主体の保育活動を園全体で展開していくためにも、子ども一人ひとりの育ちを丁寧に捉え、保育環境の構成や保育内容の見直しを計りながら公開保育を開催する。

② 健康・安全・衛生管理への配慮

- ・ 健康、衛生管理面では、新型コロナウイルス感染拡大防止の基本的な感染対策として、手洗いと手指消毒の習慣の徹底を図った。家庭にも呼びかけ、それによりインフルエンザやノロウイルス等の感染症は見られなかったが、新型コロナウイルス感染拡大による感染者が園内でも多数みられた。子どもの命を守るため、流行時には、手指消毒だけではなく施設や備品等の消毒を日々行ったり、異年齢での交流を控え、職員はマスク着用の徹底をするなど出来る限りの感染対策に努めた。また、マスク着用時には、子どもの表情が見えにくいため、より子どもの様子を観察し、体調不良者の早期発見をするよう意識して過ごした。

<改善策>

- ・ 乳幼児は抵抗力が弱く、身体の機能が未熟であるという特性を踏まえ、感染症に対する正しい知識や情報に基づいて適切な感染対策が出来るよう、全職員が日頃から感染症対策に関する意識を高め、情報共有を大切にし、十分に理解して日々の衛生管理等に活かす。
- ・ 感染症について、保護者へ保健だよりや掲示等を通じてわかりやすく伝えながら、万が一、園内で感染症が発生した場合は、早期診断・早期治療・感染拡大防止につなげるため、速やかに対策を講じるよう努める。

③ 保護者・地域との連携と支援

- ・ 乳幼児の子どもを持つ子育て世代を対象に、毎月1回子育て支援サークル「にこりん」の取り組みをスタートした。季節に合わせた歌や遊び、制作活動をする等、子どもだけではなく保護者同士も気軽に交流できる場所づくりに努め、育児の悩みを話すことで子育ての不安や負担感を柔らげることが出来たように思う。

また、近所の小学生や高齢者の方と食事を通してつながる子ども食堂「つながり食堂ほっこり」の取り組みでは、回数を重ねるごとに参加者が増え、開催日を楽しみにしてくれている様子がみられた。在園児とその保護者だけでなく、卒園児や近隣の方々に気軽に足を運んでもらえるようになってきている。保護者をはじめ、地域とのつながりの機会は、関わる全ての人の居場所となっている。

<改善策>

- ・ 信頼関係を築くためのコミュニケーションを大切に笑顔で接し、対話では誠意が伝わるよう気持ちを込めて対応する事を意識しながら、保護者が子育てや子どもの成長を楽しめる雰囲気づくりを心がける。
- ・ 子ども食堂や子育て支援サークルの開催では、感染症流行時や悪天候時の開催についてや不審者対策についての課題があがった。つながりの機会を大切にしながらも参加者の安全を守るため、万が一の不審者侵入への対応及び緊急事態が発生した場合の対応をマニュアル化しておく必要がある。

④ 災害時の対応と危機管理意識について

- ・ 災害時の対策については、職員間で動線を確認し合うなど、避難の仕方が浸透しており、子ども達が泣いたり、戸惑ったりすることなく指示を聞いて行動する姿が見られる。しかし、いざ本当に災害があった場合は慌てずに我々の使命である「命を守る」ことを第一義ととらえ、取り組む必要があるので臨機応変に対応できるようにしなくてはならない。

<改善策>

- ・ 避難訓練のみならず、災害が発生した場合の各担当職務について、一部の職員だけでなく、全ての職員が的確に行動できるよう、周知徹底しておく必要がある。
- ・ 訓練後も反省と改善を出し合いながら、いつも同じ訓練ではなく、様々なシチュエーションを想定した訓練、災害の大きさによってどのような被害が起るか想定のもと危険個所のチェックをする。

自己点検分析

① 危機管理

- ・ 子どもたちをまもるためには、危機管理が特別なものとならないようにすることが必要である。定期的に園の危機管理対策を点検し、日常の行動が危機意識の高い行動になるよう、園のルール整備や職員と子どもたちの安全教育を実施していきたい。
- ・ ヒヤリハットが起きないよう、職員同士の申し送りを徹底することで状況の把握をし、大きな事故や怪我に繋がらないようにしていきたい。

② 保育における子どもの理解の向上

- ・ 日々子どもと触れ合う中で、子どもの言動や表情から思いや考えなどを読み取ったり、受けとめることの大切さと、保育者の関わりによって子どもの姿が大きく変化することを理解したうえで、子どもの思いや成長に寄り添い、適切に子どもに援助する力を高め、子どもの姿の変容を捉えながら、記録などをもとに教育・保育をより良い改善していくサイクルを繰り返し、関わりの中で「その子らしさ」を理解できるようにしていきたい。

③ 保護者対応

- ・ 子どもはもちろん、保護者一人ひとりを大切に思い、誠心誠意接する事で、尚一層の信頼関係を築くことが出来る。職員全体で情報の共有に努め、園としての理念や方針が伝わるよう今後も意識していきたいと思う。

クレドの見直し

園の理念が具体的に示されている「保育クレド」は、職員が迷った時の道しるべとなる。全職員がクレドを基盤に行動することで、仲間意識を持ち組織全体のモチベーションが上がるのが期待される。年度の初めには全職員で読み合わせをし、心新たにスタートを迎えるが、内容の見直しをしながら、課題に直面した時にこそいかせるクレドにしていきたい。

まとめと今後の展望

《園として》

- ・ 日々の保育に満足せず、教育・保育の真の在り方とは何かを問い、自分自身を見つめなおし、一人ひとりが様々なことに興味・関心を持ちながら、子どもたちのより良い人的環境として成長出来るよう積極的に様々な園内外の研修に参加し自己研鑽に努め、学び、体験の機会を大切にしていきたい。また、更にレベルアップを目指していける環境を今後も整えていきたいと考えている。
- ・ 社会福祉サービスの質の向上をめざし、福祉の精神を忘れることなく、より一層教育・保育の充実を図ることはもちろん、子育ての孤立や保護者の負担の軽減となるよう開催した「子育て支援サークル」や「みんなの食堂」は、今後も楽しい保護者同士の交流、笑顔の仲間づくりの場となるよう努め、地域に開かれた園として取り組んでいきたい。また、地域とのつながりを持ち、いざという時の災害時の対応や有事の際の安心できる拠点となれるよう今一度環境を見直し、スタッフ一同心に留めて過ごしていきたいと考えている。
- ・ 日々、保護者とのコミュニケーションで築かれていく信頼関係を大切にし、今後も保護者が安心して通園させたいと思うと同時に、子どもたちが健やかに成長できるよう、スタッフ一

同力を合わせて歩んでいきたい。

《スタッフとして》

- ・ スタッフが様々な課題意識を持ち、改善策を実行する事によって、感染症対策をはじめ、今まで以上に子どもたちの安心安全で楽しい場となるよう事故や怪我を未然に防ぐことにつながる。子どもの命を守ることを念頭におき、今後の社会を支えていく大事な一人の人間としての人格形成の基礎を培う仕事をしているという自覚を一人ひとりが持つことが重要だと考える。
- ・ 自己研鑽はもちろんのこと、それが個人の力量の向上にとどまらず、チームとしてのまとまりと、それに伴う保育力が高まるよう努力し、職員のチームワークを強固なものにしていくことが必要である。スタッフ全員が毎日喜んで園に来て、子ども達と一緒に楽しい時間を送る事によって意欲が沸き、仕事の喜びや楽しさを味わっていけるよう今後の展望が開けていく事を期待したい。